

露地野菜・施設野菜・果樹・茶の 主産県における減肥指導実態調査

平成21年5月

農林水産省

目 次

1. 露地野菜	
① 土壌診断の実施状況	… 1
② 化学肥料の施肥低減技術	… 2
③ 農家に対する指導体制	… 3
2. 施設野菜	
① 土壌診断の実施状況	… 4
② 化学肥料の施肥低減技術	… 5
③ 農家に対する指導体制	… 6
3. 果樹	
① 土壌診断の実施状況	… 7
② 化学肥料の施肥低減技術	… 8
③ 農家に対する指導体制	… 9
4. 茶	
① 土壌診断の実施状況	… 10
② 化学肥料の施肥低減技術	… 11
③ 農家に対する指導体制	… 12

○ アンケート調査対象について

農林水産省農業生産支援課が、本年5月に以下の品目が生産されている県の農協のうち、組合員戸数の大きな農協(172農協)を対象にアンケート調査を実施した。(生産量の多い県は複数農協を対象とした)

【野菜】
ニンジン
キャベツ
レタス

【施設野菜】
ナス
ピーマン
キュウリ

【果樹】
りんご
みかん
梨

【茶】
茶

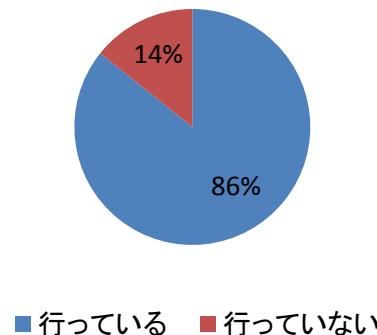
有効回答数は以下のとおり

【野菜】	21農協
【施設野菜】	26農協
【果樹】	29農協
【茶】	12農協
計	88農協

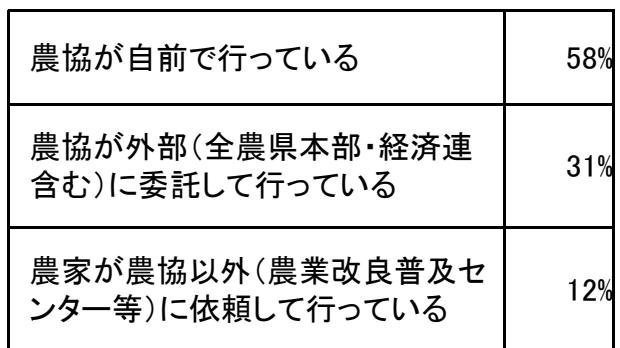
1. 露地野菜 ①土壤診断の実施状況

- 土壤分析の実施率は86%となっており、実施機関は農協自らが実施している割合が他の作物と比べ58%と高くなっている。
- 土壤診断を行うほ場の選定や診断に94%の農協が関与している。
- 土壤診断を行った場合、土壤分析データをもとに処方箋を84%が作成しており、そのうち67%が農協で作成されている。
- 土壤診断に基づく減肥が進むためには、「県レベルでの診断基準の策定」や「指導者の育成」が必要であると考えられている。

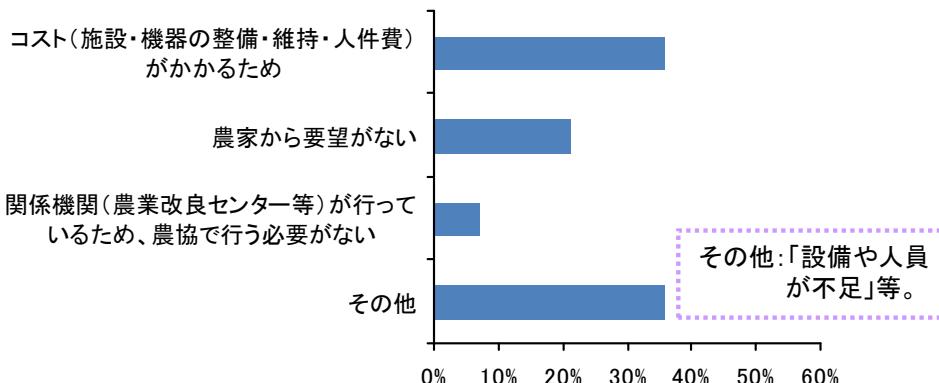
(1) 土壤分析の実施状況



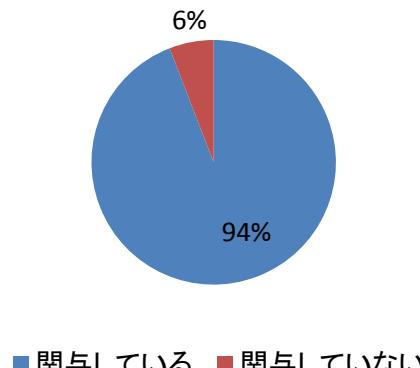
(2) 土壤分析実施機関



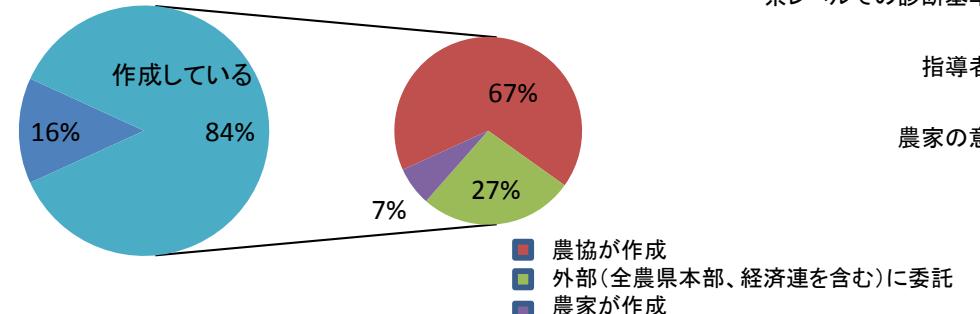
(3) 農協で行わない理由(複数回答可)



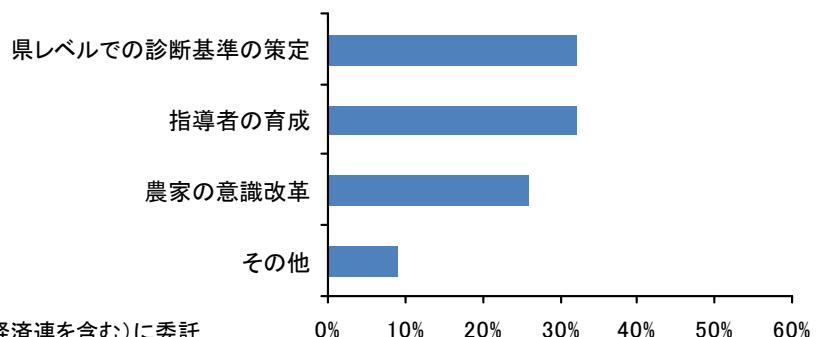
(4) 土壤診断を行うほ場の選定や診断への農協の関与



(5) 施肥に関する処方箋の作成状況



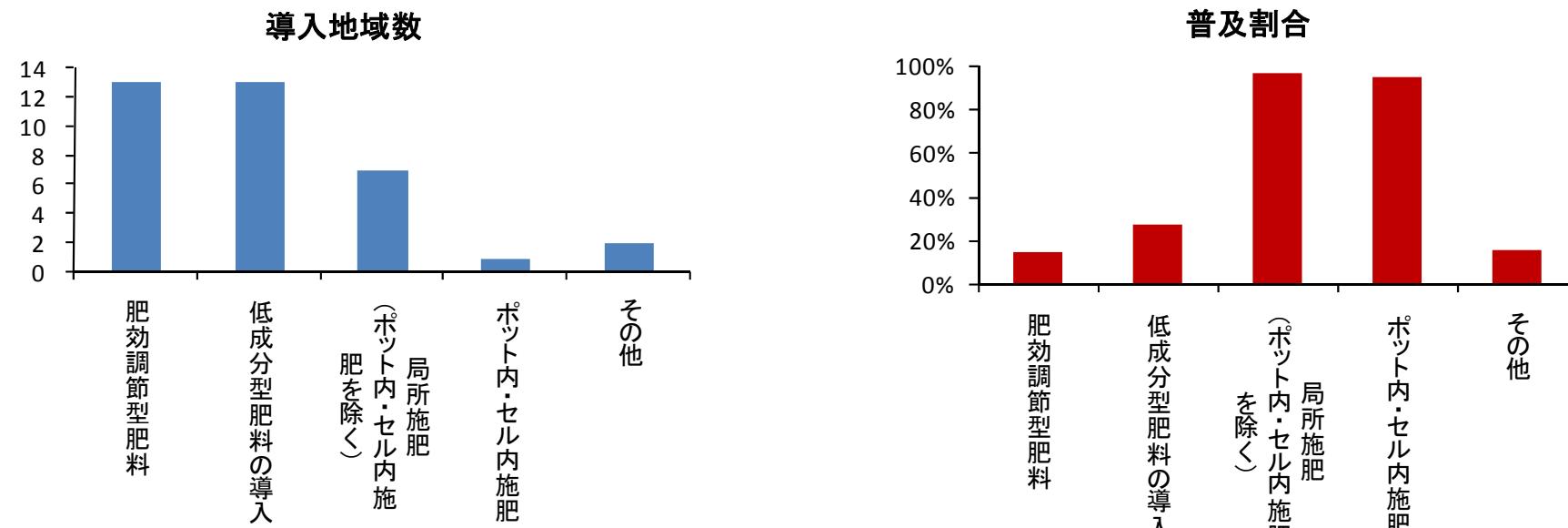
(6) 土壤診断に基づく減肥推進のために必要なこと(複数回答可)



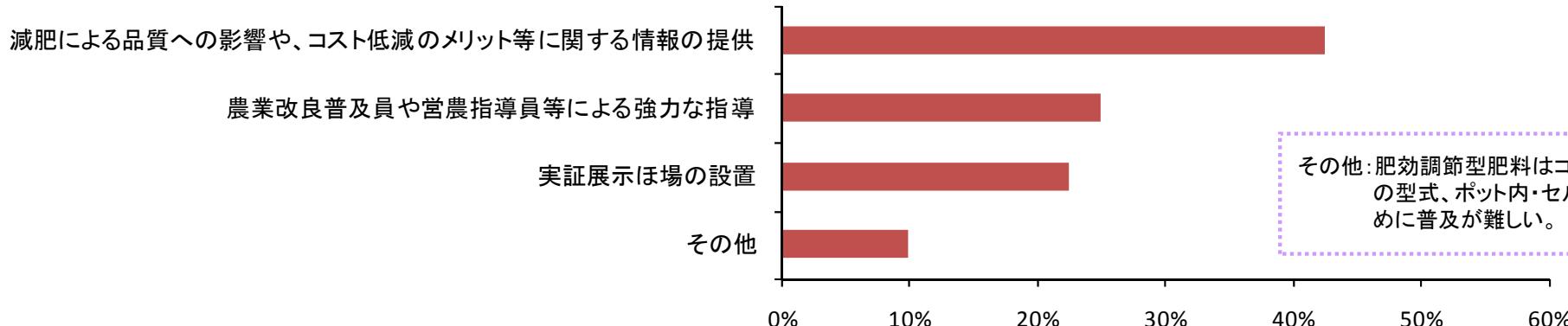
1. 露地野菜 ②化学肥料の施肥低減技術

- ポット内・セル内施肥を含む局所施肥は、農協の導入件数はまだ低いものの普及割合は高い。
- 伸び悩んでいる理由としては、「減肥による品質への影響や、コスト低減のメリット等に関する情報の提供」の割合が多く、農家に対して施肥低減技術に関するきめ細かな情報提供が必要ではないか。

(1) 活用している施肥低減技術と普及割合(複数回答可)



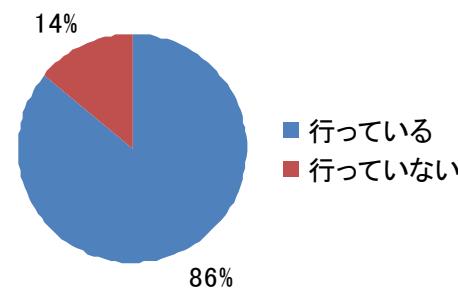
(2) 普及が伸び悩んでいる技術を普及させるために必要なこと(複数回答可)



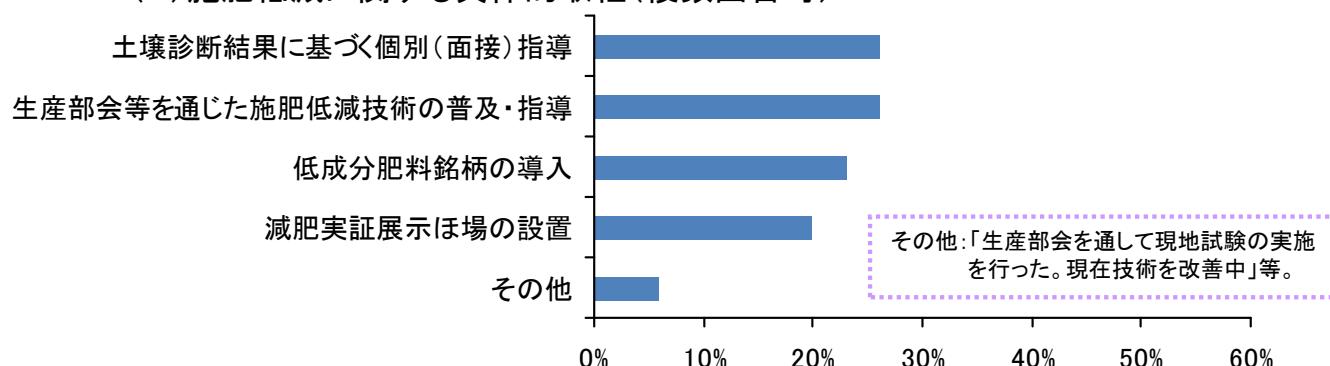
1. 露地野菜 ③農家に対する指導体制

- 施肥低減に関する取組(農家に対する指導等)は8割を越す農協において行われている。
- 取組内容については、「生産部会等を通じた施肥低減技術の普及指導」と「土壌診断結果に基づく個別(面接)指導」の割合が多く、次いで「低成分肥料銘柄の導入」、「減肥実証展示ほ場の設置」が続いている。
- たい肥の施用に関しては、たい肥施用を考慮した減肥指導を82%の農協が行っているものの、導入が遅れている農協は減肥基準などのデータがないことや、専門知識をもった人材がないことから導入を断念している。
- 減肥を進める課題としては、施肥基準や栽培基準の見直し、施肥低減技術の導入コスト、労力不足によるたい肥施用の困難さがあるとされている。

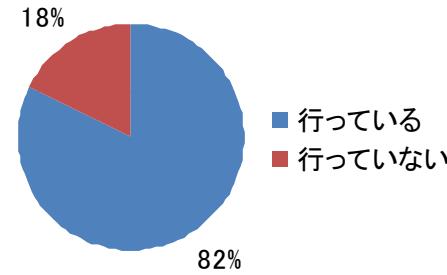
(1) 施肥低減に関する取組(農家に対する指導等)
の実施状況。



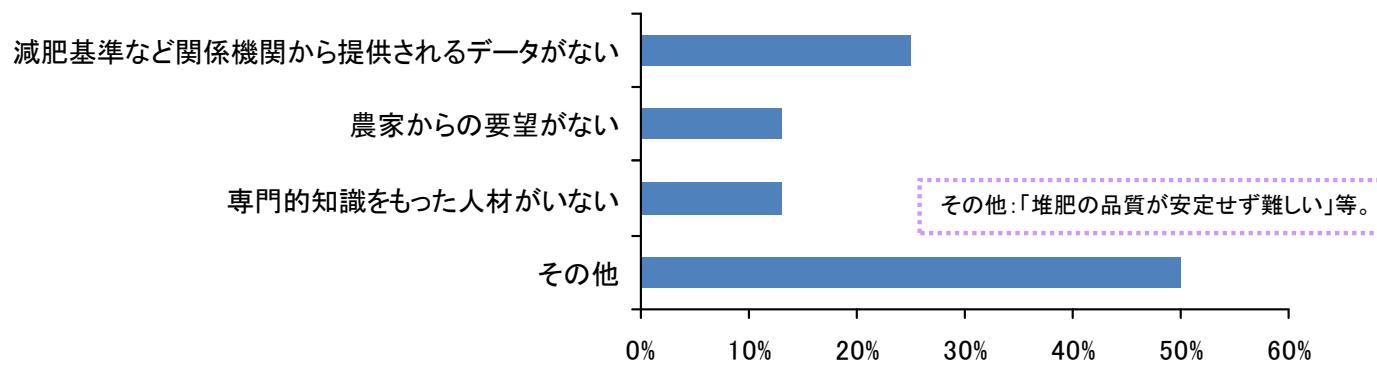
(2) 施肥低減に関する具体的取組(複数回答可)



(3) たい肥施用を考慮した減肥指導の実施状況



(4) たい肥施用を考慮した減肥指導を行っていない理由(複数回答可)



減肥を進める上での課題

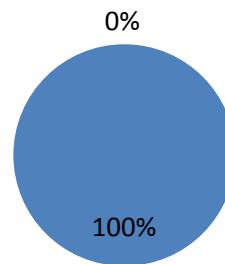
- ・施肥低減技術の導入にはコストがかかる。
- ・耕畜連携が十分でなく良質な堆肥が入手できない。

- ・各地域ごとの適正施肥基準の策定および品目別栽培基準の見直しが必要。
- ・労力不足によりたい肥施用が困難。

2. 施設野菜 ①土壤診断の実施状況

- 回答のあったすべての農協の管内において土壤分析は行われているが、全農県本部等へ委託することが多く、農協自らが実施することは少ない。
- 農協で行わない理由としては、「コストがかかるため」が5割弱となっている。
- 土壤診断を行うほ場の選定や診断には、農協が84%関与している。
- 土壤分析データをもとに処方箋を作成している割合は96%と高いが、農協自身が作成している割合は約4割にとどまる。
- 土壤診断に基づく減肥推進のためには、「県レベルでの診断基準の策定」、「指導者の育成」、「農家の意識改革」が必要。

(1) 土壤分析の実施状況

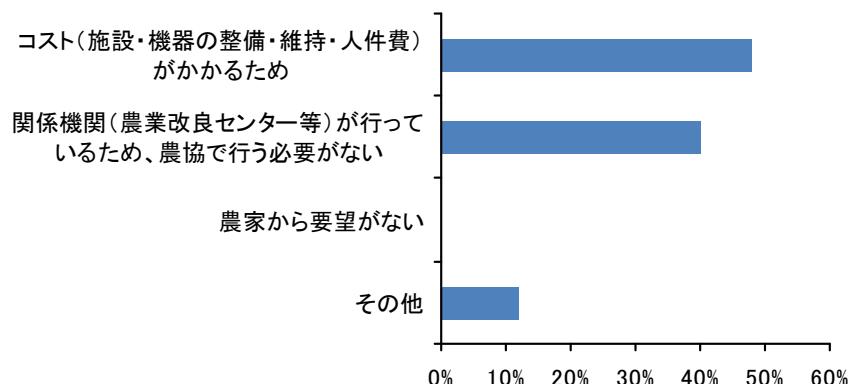


■行っている ■行っていない

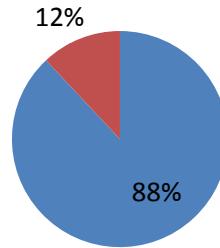
(2) 土壤分析実施機関

農協が自前で行っている	26%
農協が外部(全農県本部・経済連合む)に委託して行っている	65%
農家が農協以外(農業改良普及センター等)に依頼して行っている	9%

(3) 農協で行わない理由(複数回答可)

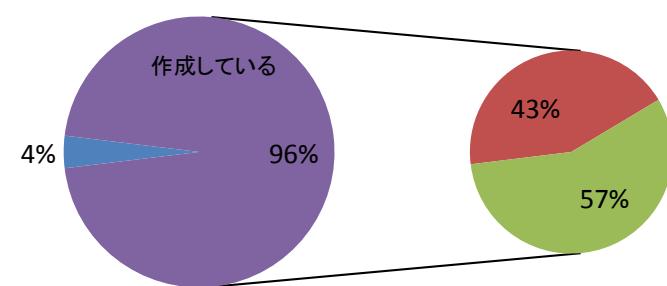


(4) 土壤診断を行うほ場の選定や診断への農協の関与



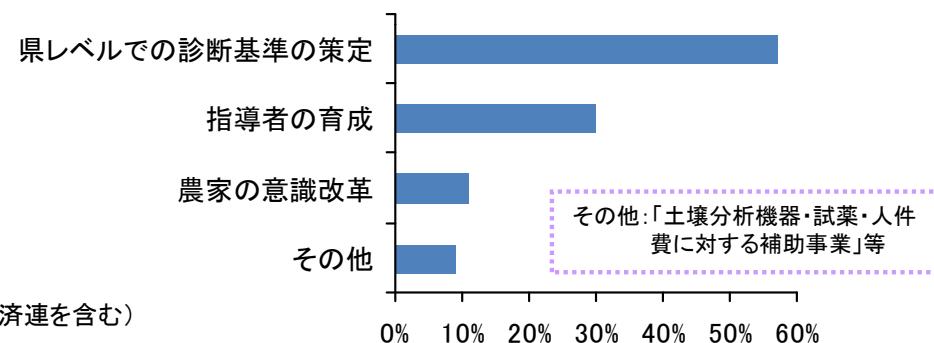
■関与している ■関与していない

(5) 施肥に関する処方箋の作成状況



■ 農協が作成
■ 外部(全農県本部、経済連を含む)

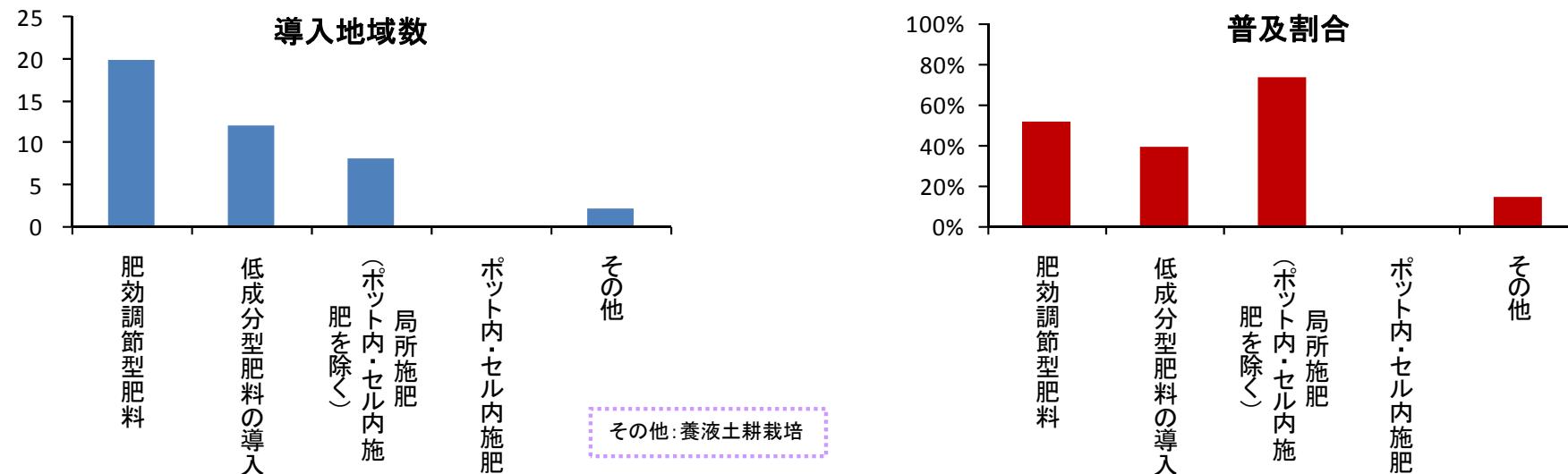
(6) 土壤診断に基づく減肥推進のために必要なこと(複数回答可)



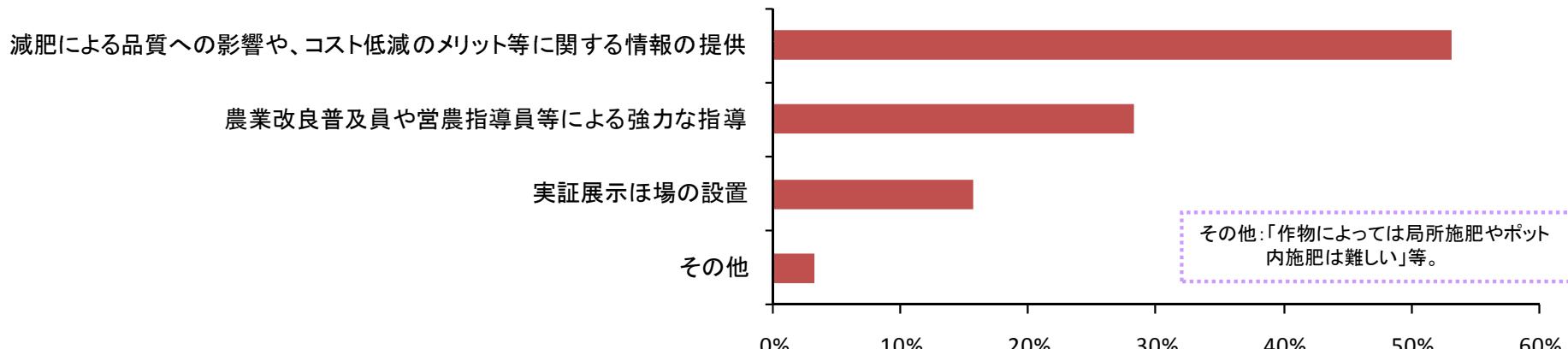
2. 施設野菜 ②化学肥料の施肥低減技術

- 活用している施肥低減技術は、肥効調節型肥料が一番多く20農協が導入しており、その普及割合は5割となっている。
- 伸び悩んでいる理由としては、「減肥による品質への影響や、コスト低減のメリット等に関する情報の提供」の割合が多く、次いで「普及指導員や営農指導員等による強力な指導」となっている。

(1) 活用している施肥低減技術と普及割合(複数回答可)



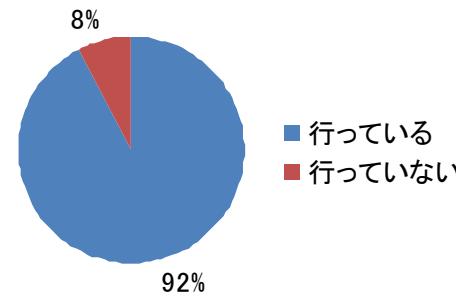
(2) 普及が伸び悩んでいる技術を普及させるために必要なこと(複数回答可)



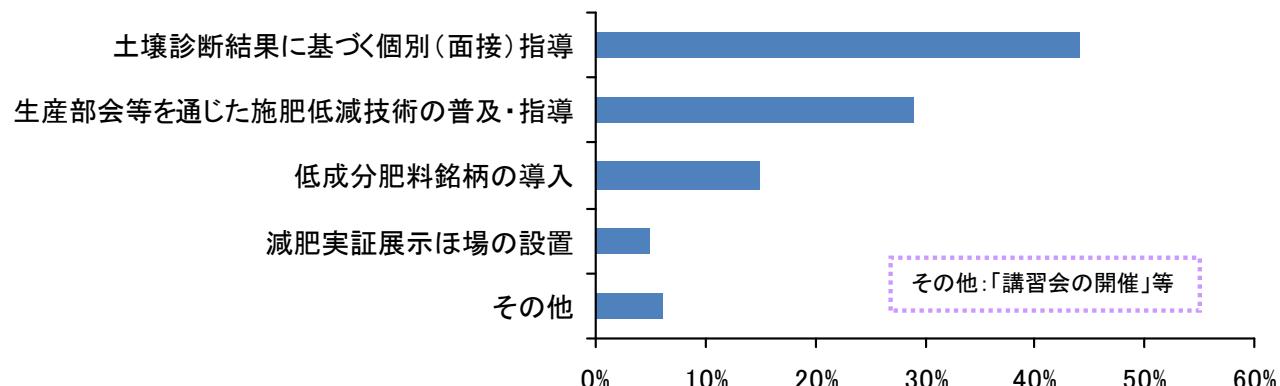
2. 施設野菜 ③農家に対する指導体制

- 施肥低減に関する取組(農家に対する指導等)が行われている農協は92%となっている。
- 取組内容については「土壤診断結果に基づく個別(面接)指導」が一番高く、施設園芸では農家に対する綿密な指導が重要と考えられている。
- たい肥の施用に関しては、たい肥施用を考慮した減肥指導を78%の農協が行っている。
- たい肥施用を考慮した減肥指導を行えない理由として、「減肥基準など関係機関から提供されるデータがない」の割合が半数を占め、次いで「専門的知識をもった人材がない」となっている。
- 減肥を進める上での課題としては、農家が経験に基づき多量施肥を行っており、土壤分析に基づく施肥を徹底するための指導体制の強化が必要。

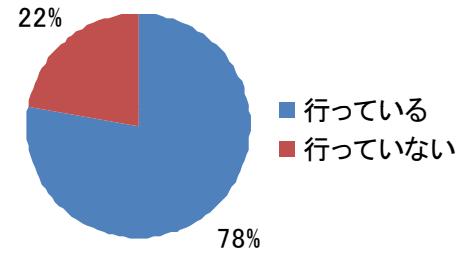
(1)施肥低減に関する取組(農家に対する指導等)の実施状況。



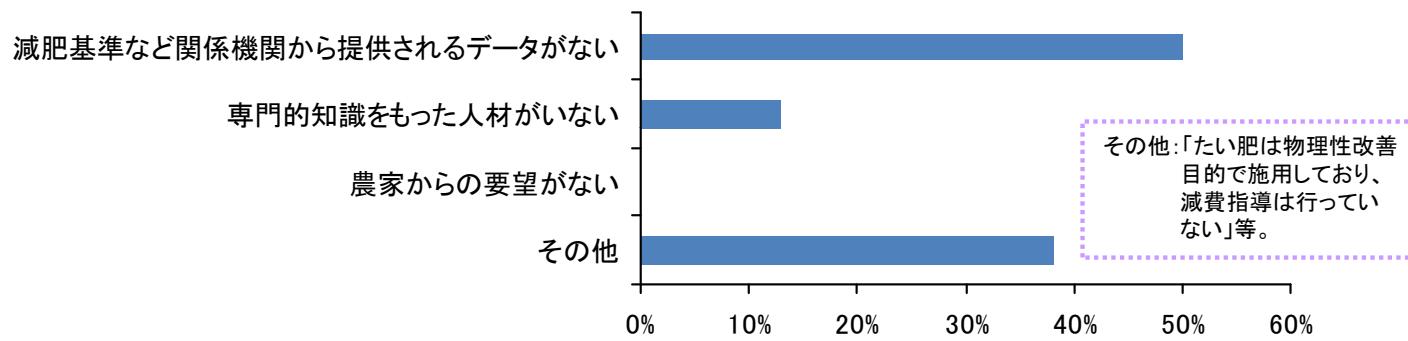
(2)施肥低減に関する具体的な取組(複数回答可)



(3)たい肥施用を考慮した減肥指導の実施状況



(4)たい肥施用を考慮した減肥指導を行っていない理由(複数回答可)



減肥を進める上での課題

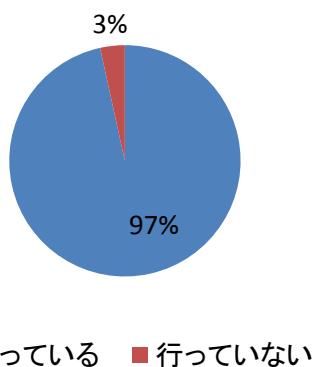
- ・農家の経験による多量の施肥が行われている。
- ・土壤診断結果に基づく施肥を徹底するための指導体制の強化が必要。

- ・減肥を行うにあたっての具体的データがより必要。
- ・新たな施肥技術を指導するためには展示が必要。

3. 果樹 ①土壤診断の実施状況

- 土壤分析は「農協が自前で行っている」は26%にとどまったものの、実施率は97%と高い。
- 土壤分析を行っていない理由では、「コストがかかるため」が5割を超え、農協が独自で行うためにはコスト低減が必要。
- 土壤診断を行うほ場の選定や診断に、農協が関与している割合は7割を超えており。
- 土壤分析データをもとに処方箋を作成している割合は92%と高いが、作成は外部委託が農協が作成を上回っている。
- 土壤診断に基づく減肥が進むためには、「県レベルでの診断基準の策定」や「指導者の育成」、「農家の意識改革」が必要である。

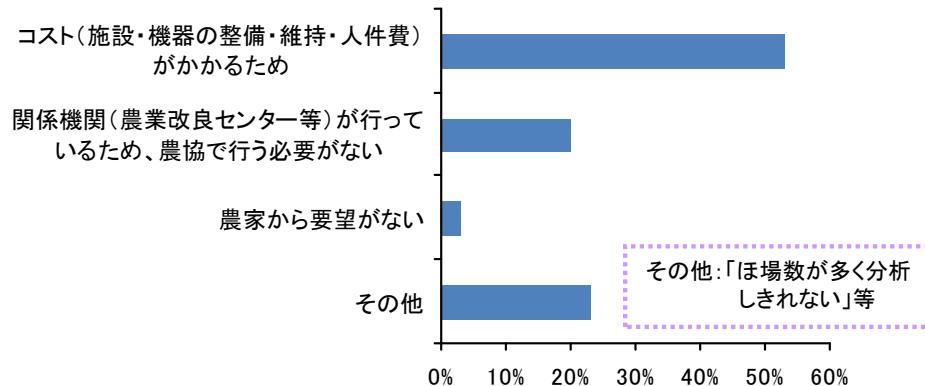
(1) 土壤分析の実施状況



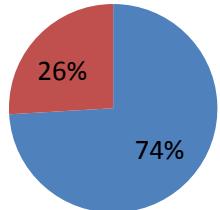
(2) 土壤分析実施機関

農協が自前で行っている	26%
農協が外部(全農県本部・経済連含む)に委託して行っている	53%
農家が農協以外(農業改良普及センター等)に依頼して行っている	21%

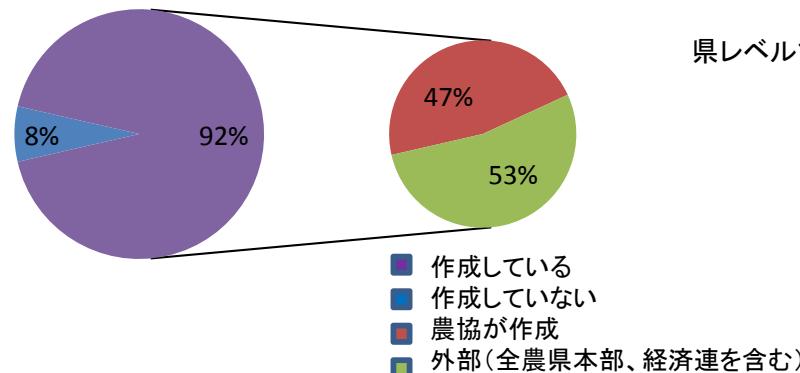
(3) 農協で行わない理由(複数回答可)



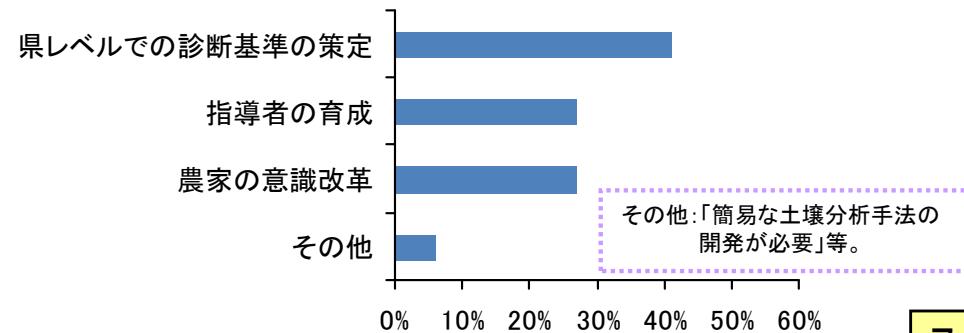
(4) 土壤診断を行うほ場の選定や診断への農協の関与



(5) 施肥に関する処方箋の作成状況



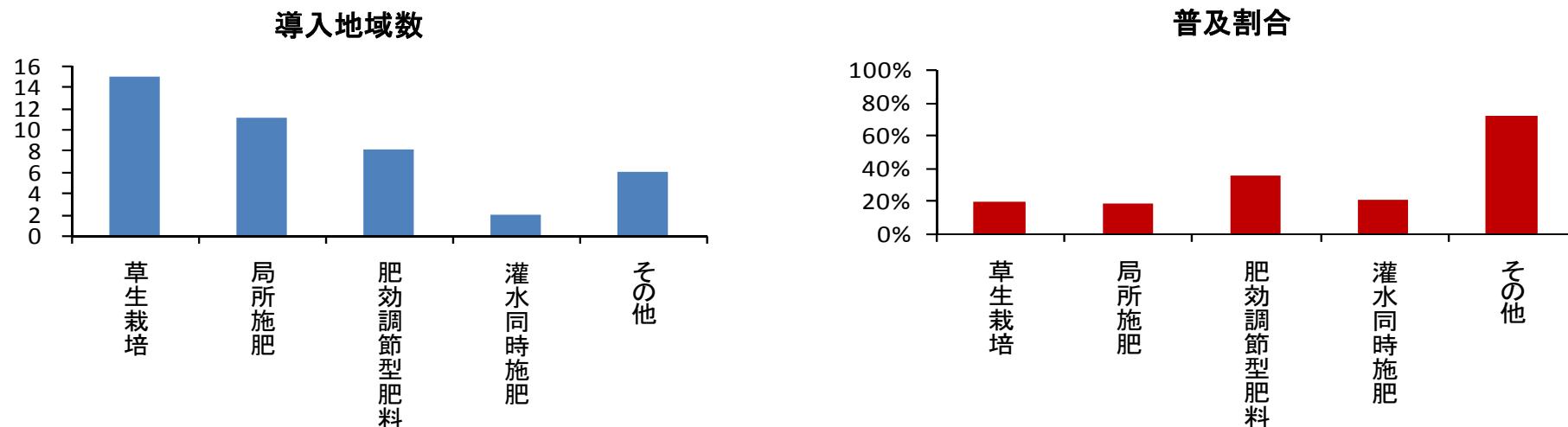
(6) 土壤診断に基づく減肥推進のために必要なこと(複数回答可)



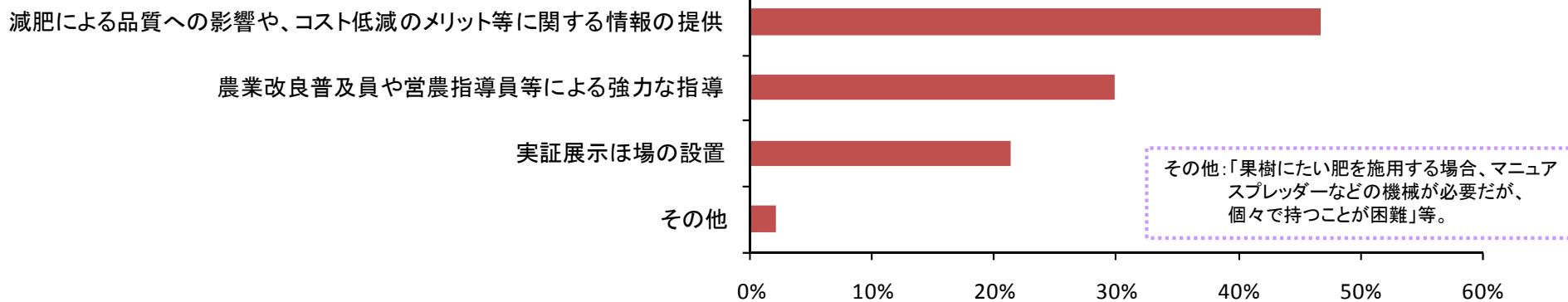
3. 果樹 ②化学肥料の施肥低減技術

- 活用している施肥低減技術は、草生栽培が一番多く15農協が行っているものの、その普及割合は20%と低い。
- 伸び悩んでいる理由としては、「減肥による品質への影響や、コスト低減のメリット等に関する情報の提供」の割合が多く、農家に対して、更なる情報提供が重要と考えられている。

(1) 活用している施肥低減技術と普及割合(複数回答可)



(2) 普及が伸び悩んでいる技術を普及させるために必要なこと(複数回答可)



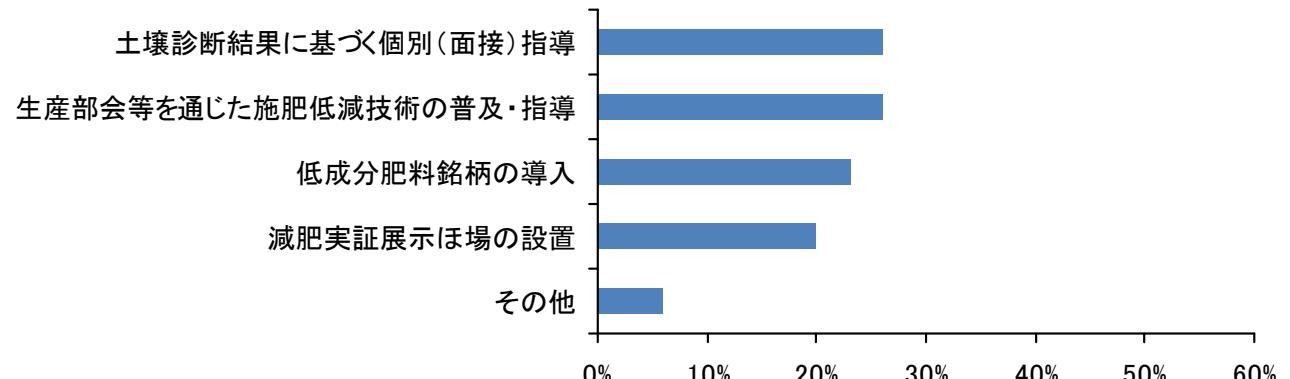
3. 果樹 ③農家に対する指導体制

- 施肥低減に関する取組(農家に対する指導等)が行われている割合は、71%と他の作物と比べ低い水準となっている。
- 取組内容については、「生産部会等を通じた施肥低減技術の普及指導」や「土壤診断結果に基づく個別(面接)指導」をそれぞれ1/4以上の農協で行われている。
- たい肥の施用に関しては、たい肥施用を考慮した減肥指導を83%の農協が行っている。
- たい肥施用を考慮した減肥指導が行えない理由として、「減肥基準など関係機関から提供されるデータがない」の割合が最も多く、次いで「専門的知識をもった人材がない」となっている。
- 減肥指導を進める上での課題としては、施肥に対する農家の意識改革が必要である。なお、みかんは隔年結果が心配されるため、減肥に注意が必要。

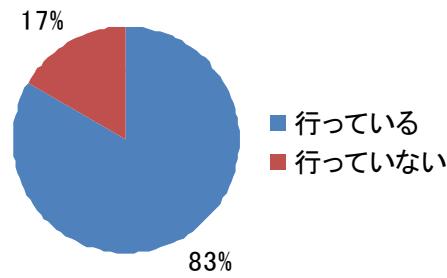
(1) 施肥低減に関する取組(農家に対する指導等)
の実施状況。



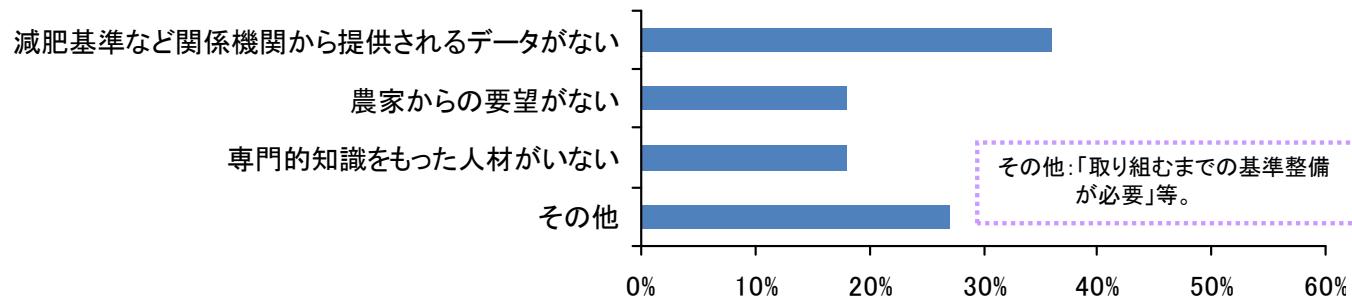
(2) 施肥低減に関する具体的取組(複数回答可)



(3) たい肥施用を考慮した減肥指導の実施状況



(4) たい肥施用を考慮した減肥指導を行っていない理由(複数回答可)



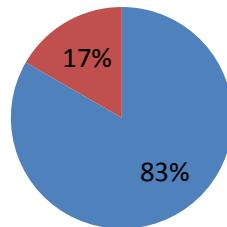
減肥指導を進める上での課題

- ・毎年と同じようにするのが慣例となっている農家が多く、農家の意識改革が重要。
- ・永年作物であるみかんにおいては隔年結果が心配されるため、減肥よりも基準量に沿った施肥を指導する方が重要ではないか。

4. 茶 ①土壤診断の実施状況

- 土壤分析の実施率は83%となっており、そのうち農協自らが実施している割合が50%となっている。
- 土壤診断を行うほ場の選定や診断に農協が関与している割合は63%と、他の品目に比べ低い水準となっている。
- 土壤診断を行った場合、土壤分析データをもとに処方箋をすべて作成しており、そのうち半数以上が農協で作成されている。
- 土壤診断に基づく減肥が進むためには、「県レベルでの診断基準の策定が必要である」との回答の割合が最も多く、次いで「農家の意識改革」、「指導者の育成」の順となっている。

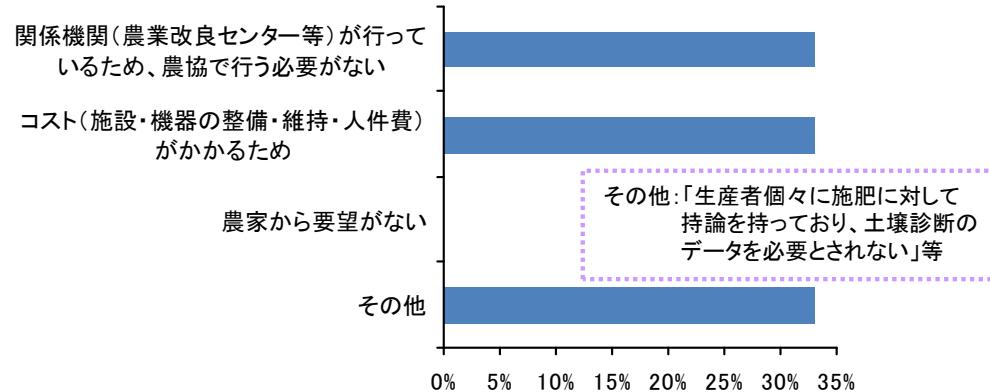
(1) 土壤分析の実施状況



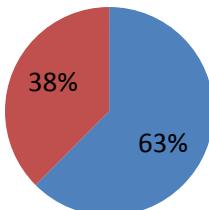
(2) 土壤分析実施機関

農協が自前で行っている	50%
農協が外部(全農県本部・経済連含む)に委託して行っている	25%
農家が農協以外(農業改良普及センター等)に依頼して行っている	25%

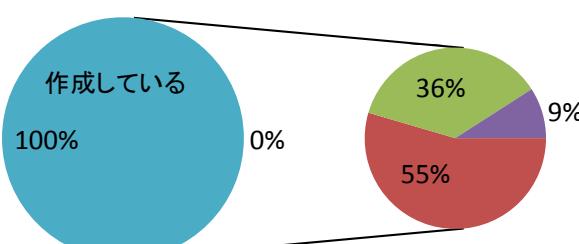
(3) 農協で行わない理由(複数回答可)



(4) 土壤診断を行うほ場の選定や診断への農協の関与

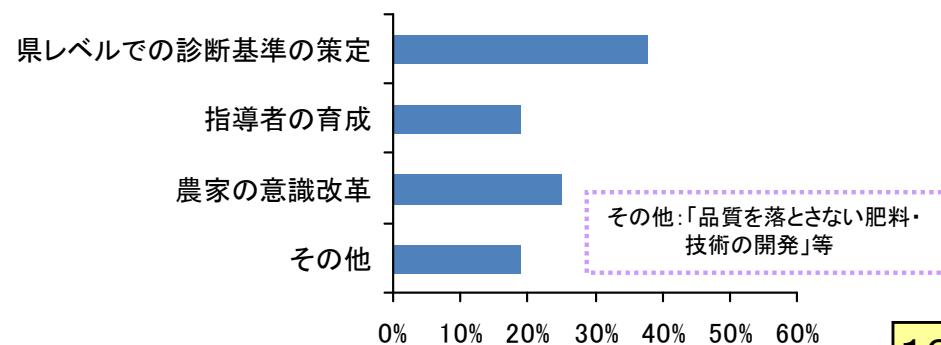


(5) 施肥に関する処方箋の作成状況



■ 関与している ■ 関与していない

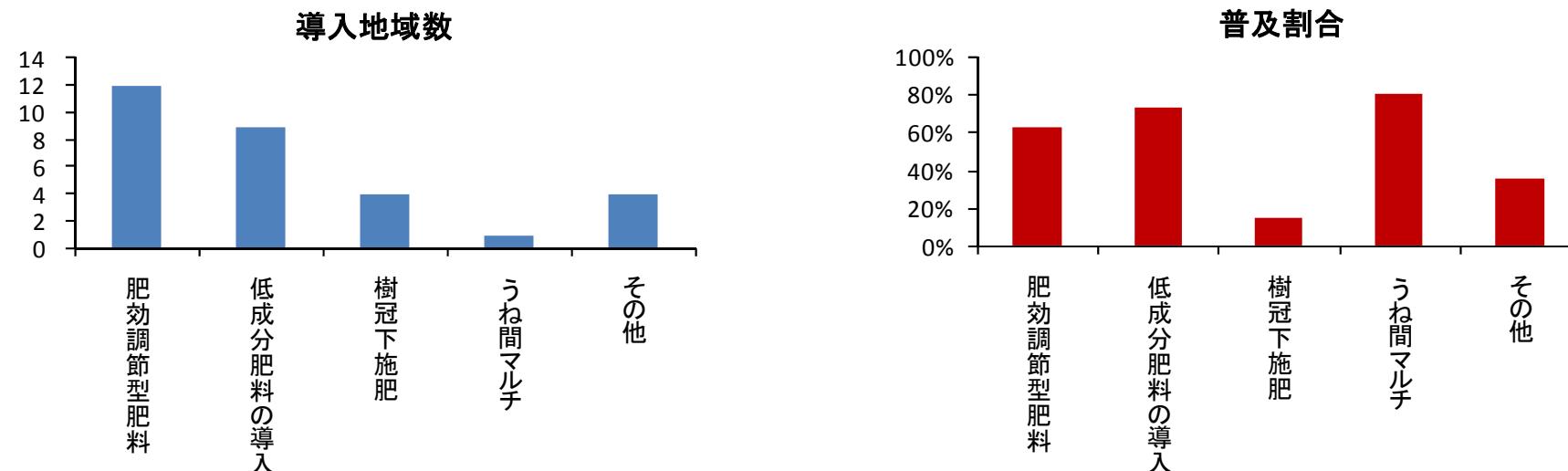
(6) 土壤診断に基づく減肥推進のために必要なこと(複数回答可)



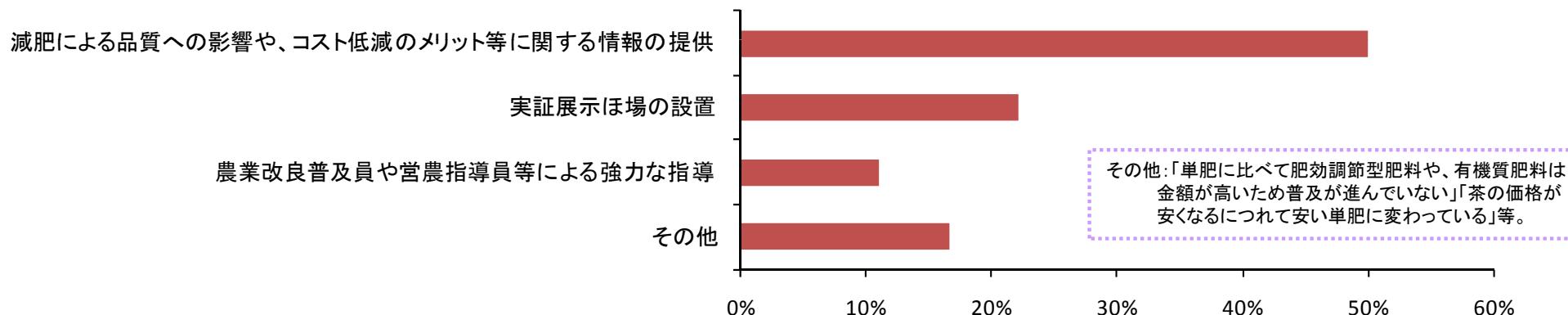
4. 茶 ②化学肥料の施肥低減技術

- 導入されている施肥低減技術は、樹冠下施肥を除き高い普及割合となっている。
- 普及が伸び悩んでいる理由としては、「減肥による品質への影響や、コスト低減のメリット等に関する情報の提供」が最も高く、農家に対して更なる情報提供が重要と考えられている。

(1) 活用している施肥低減技術と普及割合(複数回答可)



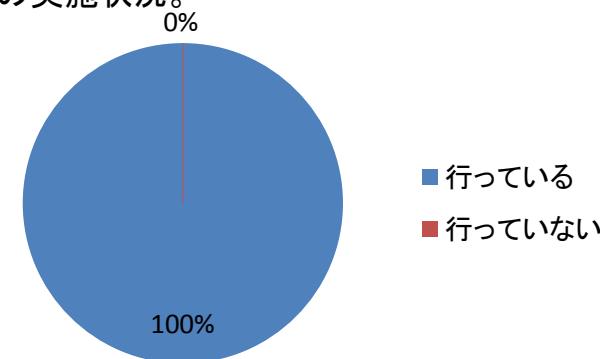
(2) 普及が伸び悩んでいる技術を普及させるために必要なこと(複数回答可)



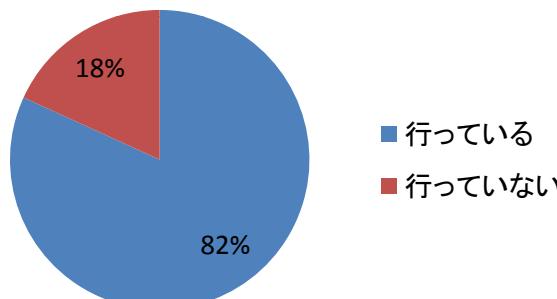
4. 茶 ③農家に対する指導体制

- 回答のあったすべての農協において施肥低減に関する取組(農家に対する指導等)が行われている。
- 主な施肥低減の取組としては、「低成分肥料銘柄の導入」や「生産部会等を通じた施肥低減技術の普及・指導」、「減肥実証展示ほ場の設置」の順で行われているが、「土壤診断結果に基づく個別指導」は少ない結果となっている。
- たい肥施用を考慮した減肥指導は8割の農協で行われている。
- 一方で、減肥指導を進める上での課題として、依然として農家の減肥イコール減収・品質低下という意識が強いことから、説得力のある試験データの提示が必要である。また、産地全体として減肥指導に取り組むには指導体制の構築が必要である。

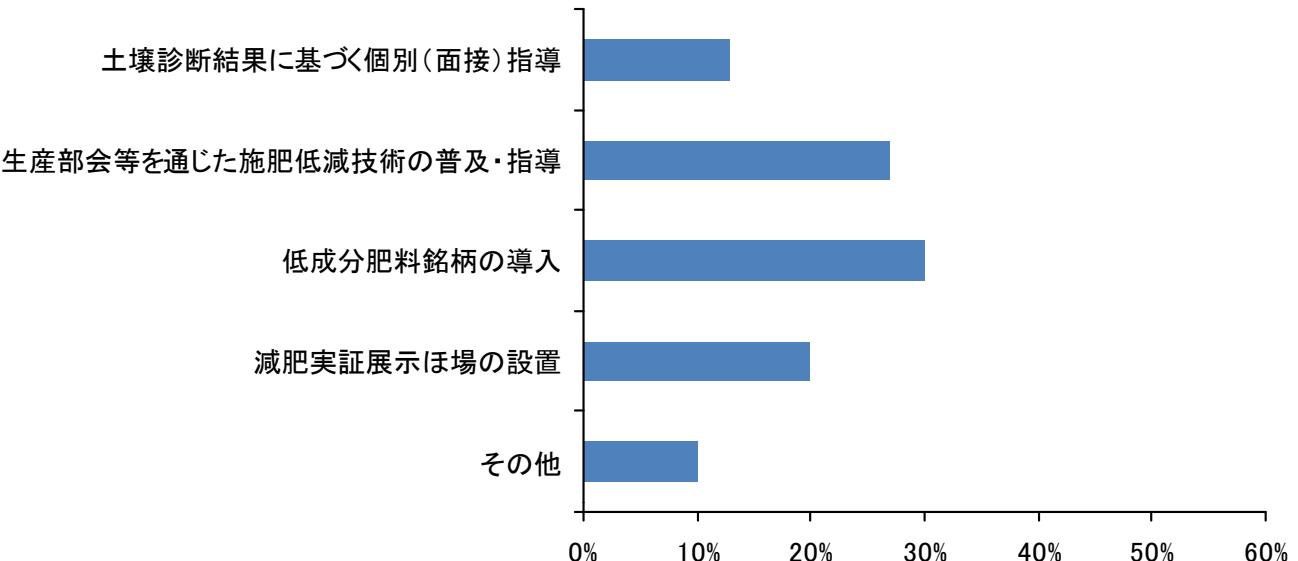
(1) 施肥低減に関する取組(農家に対する指導等)の実施状況。



(3) たい肥施用を考慮した減肥指導の実施状況



(2) 施肥低減に関する具体的取組(複数回答可)



減肥を進める上での課題

- ・減肥＝減収量という農家のイメージがなかなか消えない。説得力があるデータが必要。
- ・減肥は必要だとは思うが、お茶の場合、品質の低下が心配。
- ・一部ではよくても、産地全体で考えると減肥指導しにくい。